

はじめに

本書は、2007年度開講の秋田大学教育文化学部日本・アジア文化選修専門教育科目「日本文化論」における沖縄フィールドワークの成果報告レポートである。この授業は、秋田大学教育文化学部の文部科学省「特色ある大学教育支援プログラム」(特色G P)採択課題「ゲーミング・シミュレーション型授業の構築」(平成18-20年度、責任教員：井門正美)の実践授業として開講したものである。

沖縄での民俗と言語に関するフィールドワークも、今回で2年目となる。今年度の授業では、以下のように、月1回の事前学習会と合宿形式の調査計画発表会、5泊6日のフィールドワーク、合宿形式の研究成果発表会を実施してきた。

第1回学習会	4月13日	ガイダンス
第2回学習会	5月11日	那覇の都市空間
第3回学習会	6月8日	沖縄の生活文化 社会と歴史 沖縄の生活文化 衣食住
第4回学習会	7月6日	沖縄の生活文化 カミ 沖縄のことば
第5回学習会(合宿)	7月29日	調査計画発表会
第6回学習会	8月31日	フィールドワーク前ミーティング
フィールドワーク	9月2日～7日	那覇市内巡見、調査
第7回学習会	10月1日	フィールドワーク後ミーティング
第8回学習会(合宿)	12月22日	研究成果発表会

今年度の受講者は以下の通りである。

2年次： 安部達也 遠藤綾 遠藤由基 加藤悠 嵯峨佳菜 佐々木佳子
柴田真希 菅野里美 滝沢宏美 武田亜沙美 戸田有希乃
保坂真理 山田江美 山本佑香
オブザーバー参加： 高橋貴子(秋田大学大学院)
持田祐美子(秋田大学大学院)

受講者(学部学生)は、事前学習会での導入を経たのち、各自で情報収集をし、フィールドワークのための調査テーマを各自で設定した。フィールドワークでは、9月2・3日に那覇市内を巡検し、4～6日に各自の調査を実施した。この間の現地調査で得たデータを整理し、研究成果発表会での検討を経てまとめたのが、本書の一部である。さらに、今回、授業担当者である島村・日高の「編集会議」の様態を、巻末に掲載した。これは、各レポートの解説でもあり、この授業の実践記録でもある。ど

のようなプロセスを経て各自のレポートが完成したのか、そして、どのようなプロセスを経てこの報告書の構成が決まっていったのかを記録したものである。そこで語られるところであるが、結果のみならず「プロセスを記録する」ということが、本書に通底する方法論であると考えている。

それと関連して、ここでは、受講者たちが経てきた事前準備のプロセスを記録しておきたい。

以下は、第1回学習会のガイダンスの最後に記入してもらったアンケートの記載内容である。質問は、「沖縄（もしくは今回のフィールドワーク）について、どのようなことに興味がありますか」というものである。

- | | |
|-------|--|
| 安部 達也 | まだ沖縄についてのイメージがよくわからないが、沖縄の生活文化について何か調査できたらと思っています。まだはっきりとは分かりません。 |
| 遠藤 綾 | 観光 米軍基地 歌 食べ物 |
| 遠藤 由基 | 沖縄の生活 琉球空手 |
| 加藤 悠 | 伝統芸能
沖縄の昔話・伝承（伝説）
リゾート（観光地）としての沖縄の姿（？）
日本・海外（同じように熱い気候のトコと（済州島とか））
の観光地と比較？
始祖神話 星砂 |
| 嵯峨 佳菜 | 沖縄特有の生活文化とそのルーツ |
| 佐々木佳子 | 沖縄の来訪神・憑依神 ノロ制度
日朝比較文化論の発表材料で来訪神についての本を読んで興味を持った。 |
| 柴田 真希 | 言語や文化（食事） ガラス |
| 菅野 里美 | 文化や伝統など |
| 滝沢 宏美 | 昔話 怪談 妖怪 墓 |
| 武田亜沙美 | 外国からどのくらい文化の影響を受けているのか。
言語はどうなっているのか。
観光地都市としてどのように発展してきたのか。 |
| 戸田有希乃 | 空間について |
| 保坂 真理 | 沖縄の人々の生活・文化
とくに食文化等、酒など |
| 山田 江美 | 食 空手 |
| 山本 佑香 | 自分が興味をもったテーマについて、どこまで詳しく、楽しくまとめられるかということです。 |

文章で書いている者が少ない。あがっているキーワードも漠然としたものが多い。これが、まさに「出発点」であった。

第2回学習会では、「那覇の都市空間」について安部・滝沢・戸田が発表をした。第3回学習会では、「沖縄の生活文化 社会と歴史」について加藤・嵯峨・菅野、「沖縄の生活文化 衣食住」について遠藤(綾)・保坂・山本が発表をした。第4回学習会では「沖縄の生活文化 カミ」について遠藤(由)・佐々木・山田、「沖縄のことば」について柴田・武田が発表をした。インターネット、文献等から情報を収集し、それぞれのグループに与えられたテーマについて概説する発表である。5～7月のこうした導入を経て、第5回学習会(調査計画発表会)の前に、予備段階として提出してもらった調査計画が、以下のものである。

氏名 安部 達也	学籍番号 1506302
研究テーマ 横断幕からみる沖縄県民の生活	
概要(研究目的・準備調査の状況・具体的な調査方法など) これまでも、横断幕を部活の大会や街の商店街などで何度か見かけたことがあり、それは、人の栄誉をたたえる内容のものが多い。 (しかし、これは別に沖縄では、地域とかなり異なる内容のものもある横断幕に至るようである) 今回調査では、横断幕と人々の生活との関わり、生活にどのような影響をもたらしているのか、また、横断幕そのものにみられる特徴でそれを設置する場所、位置、などを調査する。 最終的に、その地に住む人々と横断幕の密着性を明らかにしたいと考えている。 今、インターネットで少し横断幕に関わる件を見かけたが、おそらく沖縄県民としての横断幕は、一種の文化として広く認識されているのではないかと考える。	

*7月9日(月)までに日表に提出してください。

---とほほ「インター」存在は①

氏名 遠藤 綾	学籍番号 1506310
研究テーマ	
概要(研究目的・準備調査の状況・具体的な調査方法など) ・模合 模合の沖縄での広がり、役割 ・髪はし 色、使用率、おみやげとして の観光客に対する概念	

氏名 遠藤 由基	学籍番号 1506311
研究テーマ 奥共同店・シンメナービー・関牛	
概要 (研究目的・準備調査の状況・具体的な調査方法など) 奥共同店 ... 沖縄本島北部、国頭村にある共同店。100年以上の歴史があるが存続の危機に陥らしたい。共同店の歴史や現在の状況、これがどのように存続させていくかなどを、実際に調査する。 シンメナービー ... 円錐状の丸底の大型鍋。祝い事、ヒラター汁などの料理屋、学校給食などで使われているらしい。大きさをニシンから作られたわけもあるらしい。戦前は鉄製だったが、戦後は鉄鍋の代替品としてアルミが使われたらしい。現在はリサイクルしたアルミが原料らしい。製造しているのが県内どこ所か知らないので、鹿児島と行く予定も立てた。また実際に使われているところも見たい。 関牛 ... スペインの関牛のように人と牛が戦うのではなく、牛同士が戦うらしい。県内にもいくつかの関牛場がある。年間を通して開催されているが、1/2の開催となっているので、実際に見る機会はないと思う。関牛を観望している場所について、話も聞いてみたい。	

氏名 加藤 悠	学籍番号 1506317
研究テーマ 下の3つのテーマで進めている (追加のテーマも追加の可能性がある)	
概要 (研究目的・準備調査の状況・具体的な調査方法など) ① 沖縄独自の贈答品 - 3種類ではKFCなどの贈答品にして、JFCの色紙に1/2の付、クマクマ、おむすびなど? - 本物の贈答品? ② 沖縄の色彩について - 和型、伝統的な、建築物 - 大規模な影響? (沖縄の?) ③ 沖縄における女性の役割 - ノコヤユタガサの女性、ノコヤユタガサの男子をめぐってある例、ノコヤユタガサ、 - 女性の役割、その重要性について、最近の傾向も調査したい。沖縄における女性の役割の調査における役割の重要性という点について調査したい。 * 7月9日(月)までに日報に提出してください。なので「大文字」でかき進めたい。左側に「いいお天気」。	

氏名 巖城 佳葉	学籍番号 1506321
研究テーマ エイサー	
概要 (研究目的・準備調査の状況・具体的な調査方法など) 「エイサーエビデンス」。旧来と新しいエイサーの歴史と変遷があることを。 青年会活動 ・昔 (少なくて昭和50年代) は秋田でも青年会活動が盛んで、男の会場の場だった。 ・なぜ沖縄では現在でも青年会活動が盛んなのか、 ・それはエイサーとは異なるのか、 } エイサーから見た ・エイサーのお祭りの場はどう変わってきたのか、 } 沖縄の若者文化の歴史。 (現在、結婚式の場でも使われている) ④ 青年会活動の歴史 - 青年会の歴史 - エイサーの歴史 (1950年代) - 石原の歴史 (1960年代) - 秋田の青年会活動を取り上げ、結婚式の場でも使われるようになった。 が詳しくないので、追加したい。	

氏名	佐々木 佳子	学籍番号	1506333
研究テーマ	ユタ		
概要 (研究目的・準備調査の状況・具体的な調査方法など)	<p>沖縄のカミについての総表で、ユタについて調べていくうちに、本物のユタに会ってみたいと思うようになった。</p> <p>今回 テーマをユタにして、現地では 1人のユタに密着し、その人のライフストーリーやユタの姿態をさぐりたい。</p>		

氏名	柴田 真希	学籍番号	1506142
研究テーマ	「方言コース」から見た 沖縄方言		
概要 (研究目的・準備調査の状況・具体的な調査方法など)	<p>・沖縄方言の基礎 (ウチナーグチ、ウチナーマダグチ) など、秋田で語られていることについて調べる。</p> <p>・「方言コース」に参加している人たちにインタビュー</p> <p>・沖縄から独自の文化がある場所での言語の変化、それに伴う人々の意識変化を推測する。</p>		

氏名	菅野 里美	学籍番号	1506345
研究テーマ	うちなー弁当		
概要 (研究目的・準備調査の状況・具体的な調査方法など)	<p>うちなー弁当…お昼になると所々にベラソルがたむき、弁当が売られる。価格も安い。</p> <p>調査方法…実際に売っている人にインタビュー 地域や場所の年代層によって違いが見られるが、</p> <p>(赤瓦(あかゎ)と白瓦(しろゎ)) 瓦に男瓦、女瓦があるらしい</p>		

氏名	滝沢 亮美	学籍番号	1506352
研究テーマ	沖縄と秋田の米農家の比較		
概要 (研究目的・準備調査の状況・具体的な調査方法など)	<p>沖縄では二期作が行われていて、田んぼでイモが栽培されていることを知り、このように秋田の米栽培とは違う風習を調べ比較したい。</p>		
目録	<ul style="list-style-type: none"> 一年の米栽培スケジュール 苗の植え付け～稲刈りのやり方 品種 異なる作物の種類 米農家の生活 台風への対策は？ 	<ul style="list-style-type: none"> 出来本は現地の米農家の一日に空着して調査したい。 秋田の方は自分の家をメインに調査。 	

氏名	武田 亜沙美	学籍番号	1506355
研究テーマ	沖縄での女性観。		
概要 (研究目的・準備調査の状況・具体的な調査方法など)	<p>コザにあるおばあスタック、モレヒカフェ (店主がブログを書いている) とコザを訪れ、その人のライフストーリーを調べる。</p> <p>コザという地方にはアメリカの文化、アジアの文化がまじりあっていてその人々の変化を知りたいと思った。</p> <p>土地について、コザ以外にも北谷町というところもあり、そことコザどちらにしようかまだ検討中。</p>		

氏名	戸田 有希乃	学籍番号	1506357
研究テーマ	沖縄の台風事情		
概要 (研究目的・準備調査の状況・具体的な調査方法など)	<p>目的：沖縄は台風王国として有名だが、台風に対する住民の意識はどうかを調べたい。台風直前・台風中・台風直後の住民の行動や、対策、家屋構造を調査したい。</p> <p>調査方法：沖縄住民・移住民にインタビューする。 ビデオ屋、居酒屋に台風時の売り上げを聞く。 家屋構造・対策を聞いて回る。 傘の大きさを知る。 →ビニール傘の売り上げ</p>		

氏名 保土反 真理	学籍番号 1506361
研究テーマ キジムナーの伝承(伝)	
概要(研究目的・準備調査の状況・具体的な調査方法など) ・沖縄本島を中心に「木の若衆」と考えられ、伝えられている「キジムナー」が実際どのように伝えられているかを知るため調査する。 ・準備調査として文献等で、キジムナーがいると伝えられている森や土地を調べ、地図上に印をつけて把握しておく。 ・具体的な調査方法としては行くことができない範囲で準備調査で調べた印の出向き、実際にキジムナーを見た等という人から話を聞く。いろいろな土地でそれを聞き取るとき、比較し、違いがあった場合、その違いはどこからくるのか(地理的条件など)を調べる。	

氏名 山田 江美	学籍番号 1506368
研究テーマ 沖縄空手古武術	
概要(研究目的・準備調査の状況・具体的な調査方法など) 無形文化財に指定された人を訪ねて話を 聞く。 ・沖縄空手の世界 ・歴史のうら復り	

氏名 山本 佑香	学籍番号 1506369
研究テーマ 海→ビーチ→海の家、経営→利用している人たち→その他...	
概要(研究目的・準備調査の状況・具体的な調査方法など) また、キーワードが思いついていないのですが、キーワードはこのようなものです。 海の家/経営/ライフスリー/レンタル屋/売店/アルバイト/ライフバー/飲食/サービス(シャワー、トイレ...)/観光/自然/時間帯/人気/人エビチ/リゾート ビーチ利用料金/駐車場/名前(地域?おかし...)/近くにある店/お土産 (どこに行き、何に使用されるのか...) 地元の人たちの目線/秋田との比較/清掃活動/島(無人島、奄美島...) リゾート研究/企業/ホテル所有ビーチ/プール/施設/船、交通 マリンスポーツ/インストラクター/首領:津波、満潮、干潮.../開閉島 利用している人々(年齢層、地元の人、旅行者、外人...)/仮設仮設... こういったキーワードの中で、深く研究できそうで興味あるものをやりとりし、おもしろい調査をしたいです。	

*7月9日(月)まで日直に提出してください。"沖縄の海"というのは、おなじみの"大文字"だけでなく、その大文字のテーマをあらえて選んで、どこまで掘り下げて"小文字"にできるかが知りたいです。

その後、第5回学習会で調査計画を詳細に検討した結果、大幅な方向転換をする者も現れた。さらに各自で事前準備を重ね、そしてついに現地調査に赴くことになる。そこで出会った「生の沖縄」から、受講者たちは何を得たのか。さらに、現地調査を終え、数カ月をかけて考察を進めるなかで、何が熟成されて残ったのか。それを以下の各レポートで確かめていきたい。いずれにしろ、かれらがたどり着いたゴールは、上にあげたそれぞれの出発点からは、決して見えてはいなかったものである。

なお、下記のウェブサイトにも、2006年度と今回の2カ年にわたる調査報告を掲載している。あわせて参照されたい。



<http://www.ipc.akita-u.ac.jp/~hidaka/web/okinawa/>

今回も現地調査では、多くの方々のご協力を得た。個別には、それぞれの論文で謝意を述べることとするが、ここでも記して感謝の意を表したい。

2008年3月

島村恭則
日高水穂